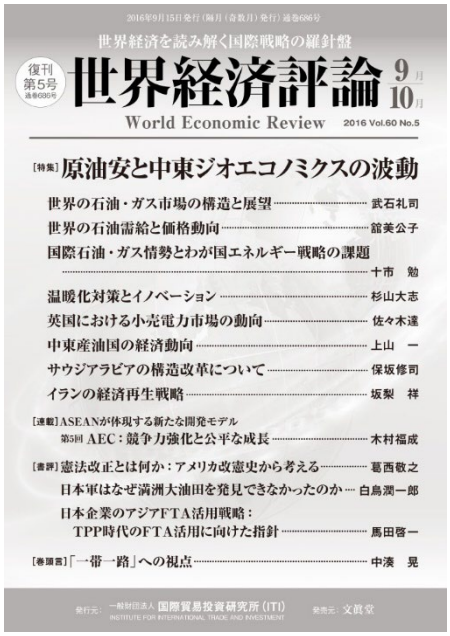
Back Number

本論文は

世界経済評論 2016 年 9/10 月号

(2016 年 9 月発行)

掲載の記事です



2016年9月15日発行（毎月（奇数月）発行）通巻686号

世界経済を読み解く国際戦略の羅針盤

復刊 第5号 通巻686号

世界経済評論 9月 10月

World Economic Review 2016 Vol.60 No.5

[特集] 原油安と中東ジオエコノミクスの波動

世界の石油・ガス市場の構造と展望 …… 武石礼司

世界の石油需給と価格動向 …… 舘美公子

国際石油・ガス情勢とわが国エネルギー戦略の課題 …… 十市　勉

温暖化対策とイノベーション …… 杉山大志

英国における小売電力市場の動向 …… 佐々木達

中東産油国の経済動向 …… 上山　一

サウジアラビアの構造改革について …… 保坂修司

イランの経済再生戦略 …… 坂梨　祥

[連載] ASEANが体現する新たな開発モデル

第5回 AEC：競争力強化と公平な成長 …… 木村福成

[書評] 憲法改正とは何か：アメリカ改憲史から考える …… 葛西敬之

日本軍はなぜ満洲大油田を発見できなかったのか …… 白鳥潤一郎

日本企業のアジアFTA活用戦略：TPP時代のFTA活用に向けた指針 …… 馬田啓一

[巻頭言] 「一帯一路」への視点 …… 中澤　晃

発行元：一般財団法人 国際貿易投資研究所（ITI） INSTITUTE FOR INTERNATIONAL TRADE AND INVESTMENT　発売元：文眞堂

世界経済評論 定期購読のご案内

年間購読料 1,320円×6冊=7,920円 ▶ 6,600円 税込

17% 送料無料 OFF

富士山マガジンサービス限定特典

定期購読期間中 デジタル版バックナンバー ※通巻682号以降 読み放題!!

世界経済評論　定期購読

[24時間・年中無休] 0120-223-223

お支払い方法 Webでお申込みの場合はクレジットカード・銀行振込・コンビニ払いからお選びいただけます。お電話でお申込みの場合は銀行振込・コンビニ払いのみとなります。

Fujisan.co.jp 雑誌のオンライン書店

岡田 江平

ある時，アラブの大富豪?

40年ほど前の日本の小学生は，アラブ人＝大金持ちだと信じていた。当時人気の絶頂にあったピンクレディーの大ヒット曲「ウォンテッド」に，「ある時，アラブの大富豪」という一節があったからである。第一次石油ショックの記憶も鮮やかな頃であるから，アラブ→産油国→大金持ち，という連想が多くの日本人に共有されていたのであろう。

時は下って，２年ほど前に，関西のある大学で，特に中東を専門としていない一般学生を相手に「中東入門」的な講義をしたことがある。その際，「中東」と聞いてまず浮かぶイメージは，と聞いたら，「石油がいっぱい採れる」「お金持ち」という答えが多かった。ピンクレディーを知らない世代においても，中東＝「産油国」「金持ち」というイメージが健在であることに驚いた。

もちろん，中東諸国といっても，資源に恵まれず，それゆえに金持ちでもない国々が大半である。「白い布をかぶった大富豪」がいるのは，中東のほんの一部，湾岸のアラブ系産油国だけだ。もっとも，一部の国を以て中東の代表と見てしまう傾向は，日本に限ったことではない。米国にとってはイスラエルとサウジ，英国にとってはエジプトやヨルダン，イラクなど，フランスにとってはレバノン，シリアとマグレブ諸国などが「中東の代表選手」になっている。

ただし，これらの国々と中東の関係は，より深く，かつ，複雑である。特に，欧州にとって中東は，有史以来，連続不可分な存在といってよい。欧州は，中東を自らの一部分とするとともに，自らも中東の一部を形成しているのである。Middle East とか Moyen-Orient という言い方じたい，その距離感の近さを示すものである。したがって，そういった歴史的背景のない日本が欧州諸国と同じ深度で中東問題を意識し，理解できないことに対し，劣等感を持つ必要はないであろう。もちろん，欧州諸国にとっての中東問題の深刻さ，複雑さは理解するべきであるが，それは，背景を異にする日本が全く同じように悩み，対処しなければならないということではない。日本にとってはアジアにおける地政学上の諸問題は複雑かつ深刻であるが，欧州諸国が日本と同じように捉えているということは全くないのだから。

しかし，このような日本と中東の関係にも，急速に変化は訪れている。それを端的に表すのが，直行の航空路の出現である。近年まで，中東地域との往来は欧州経由であった。まず中東よりずっと遠い西欧の空港に行き，そこで乗り換えて，何時間もかけて数千キロ戻るという，ばかばかしいほど迂遠なルートしかなかった。日本と中東の関係がタンカーの往来にほぼ尽きていた時代には，それもやむを得なかった。だが今日では，日本からドバイやアブダビ，イスタンブールなどに毎日何本も直行便が出ており，中東との物理的な近さがようやく実感できるようになった。日本人も，インフラから食料品，医療サービスの輸出にいたるまで，極めて多岐にわたるビジネスを中東で手掛けるようになった。事柄の性質上明るみに出ることが少ないが，日本の病院でメディカルチェックを受ける中東諸国の要路の方々も増えている。欧州を経由しない直接のヒト，モノの流れが，徐々にではあるが，日本人の中東観をより立体的な，豊かなものにしつつある。

おかだ こうへい　経済産業省通商政策局通商政策課長。

＊文中，意見にわたる部分は筆者の私見であり，所属組織のものではありません。